

サルにも効果がある多獣種電気柵”おじろ用心棒”

通電式支柱を用いた電気柵(おじろ用心棒)

ニホンザルによる農作物被害対策の課題

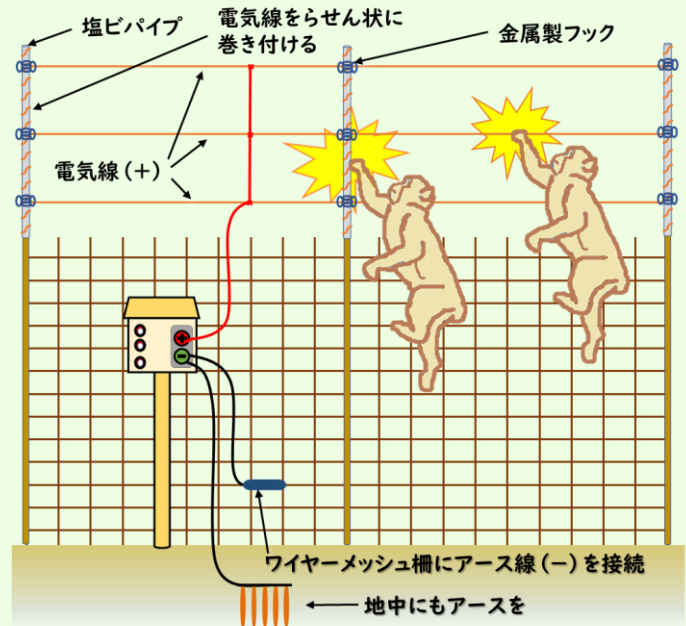
- ・農作物被害は深刻化
- ・人口や地形により追い払いが困難な農地も多い
- ・サルにも効果がある防護柵はあまり普及していない

集落の工サ資源量を低減するには、侵入防止効果が高い柵を普及させる必要がある

そこで!!

おじろ用心棒 (兵庫県香美町で考案)

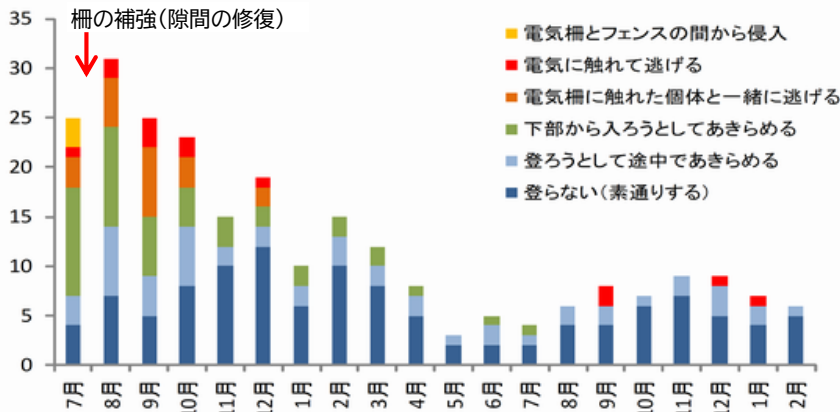
- ・通電式支柱を用いた電気柵
- ・サルが登れない
- ・シカ、イノシシの被害も防げる多獣種柵



三重県内での効果の検証

- ・120頭程度の群れが出没する集落で、サル被害が多発する菜園に、H23年7月～H25年2月の期間、おじろ用心棒を設置。
- ・柵の周辺に設置した自動撮影カメラで、15ヶ月連続撮影し、撮影されたサルの侵入行動や回数を分析し、効果を検証しました。

自動撮影カメラによるサルの撮影回数



結果

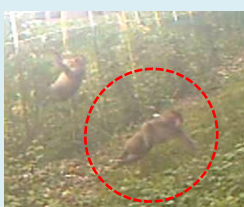
●サルの菜園への接近回数は、設置直後の8月をピークに徐々に減少しはじめ、1年後の7～9月では前年の1/5程度となりました。

○通電式支柱を用いた電気柵(おじろ用心棒)は、サルの侵入防止効果が高いことが確認できました。

○侵入行動をとるサルの比率も減少しました。



電気柵に触れて逃げる



電気柵に触れた個体と一緒に逃げる



下部から入ろうとしてあきらめる



登ろうとしてあきらめる



素通りする

設置上の注意

- ワイヤーメッシュ上端と1段目の電気線の間隔は5cm。
- ワイヤーメッシュをたわませて、隙間を作らない。
- 電圧は4000～5000V以上。
- 飛び込める木などを周囲に残さない。

注意

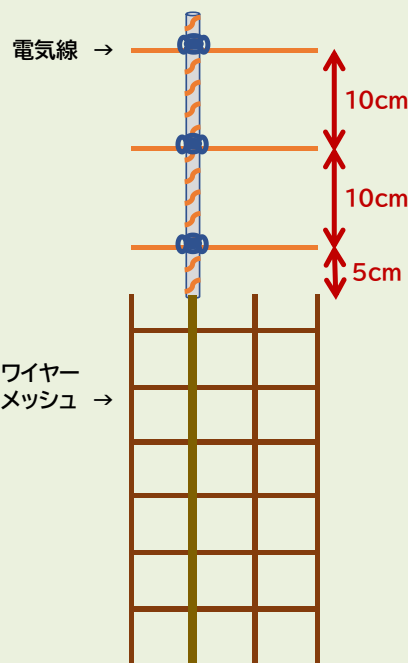
ワイヤーメッシュがたわんでいたり、メッシュと1段目電気線の間隔が大きいと、サルに隙間から潜り込まれます。その場合、メッシュの中央に絶縁資材で補強を入れれば、より完全です。



隙間から潜り込むサル



ダンボールなどの絶縁性の棒を中央に設置し、隙間を補強します



- 追い払いが難しい果樹園でも効果が期待できます。
- 既存のフェンスに追加することで、多獣種柵に発展できます。



みかん園でも設置



既存のフェンスに加えることでサルも防げる柵に（伊賀市子延地区）

必要資材

資材	規格	必要個数
ワイヤーメッシュ	横2m×高1m、編目10cm、太さ4mm程度 (編目が大きいと子ザルやウリ坊が侵入します)	2mに1枚
鉄筋	13mm、高さ1.5m程度（支柱に使用します）	2mに1本
アンカー		適宜
塩ビパイプ(VP16)	長さ1m弱。内径16mm、外径22mm	2mに1本
電気線	3段（シカも防ぎたいときは4段に。4段目は通電しなくても可）	
金属製フック	22mm用（どこを持ってても感電するように、通常の碍子のかわりに金属製のクリップを使用します）	支柱1本に3個
パワーユニット(電牧機)	電気線の長さに合わせて選定	1台

作成：三重県農業研究所 TEL 0598 (42) 6356

発行・問い合わせ先：三重県農林水産部獣害対策課 TEL 059 (224) 2017

(当資料はHPからダウンロードできます <https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/000051663.htm>)

